

第 3 回（仮称）これからの図書館構想策定検討委員会 議事録

- 1 日時 令和 3 年 1 月 2 6 日（火）午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分
- 2 場所 オンライン
- 3 出席者 野口委員長、長谷川副委員長、齋藤委員、田倉委員、片岡委員、三澤委員、中川委員、河原委員、江島委員、湯澤委員、田村委員、八尋委員
- 4 事務局 教育振興部長、光が丘図書館長、計画調整係係長、計画調整係職員
- 5 公開の可否 非公開
- 6 傍聴者数 0 名
- 7 議事等
 - (1) 議事確認
 - (2) 他自治体の事例紹介
 - (3) 議題
情報拠点としての図書館とは
 - (4) その他
 - (5) 次回の予定
- 8 配布資料
 - (1) 第 2 回（仮称）これからの図書館構想策定検討委員会 議事録
 - (2) 「情報拠点としての図書館とは」ワークシートまとめ
- 9 会議の概要
委員長が遅参のため、（仮称）これからの図書館構想策定検討委員会設置要綱第 4 条第 5 項の規定に基づき、委員長の参加まで副委員長が代理
 - (1) 議事確認
副委員長より、資料 1「第 2 回（仮称）これからの図書館構想策定検討委員会 議事録」について、議事内容確認
（委員による議事承認）

○ 副委員長

本日は初のオンライン開催です。第2回検討委員会では様々な意見が出され、「情報拠点としての図書館とは」というテーマで、ワークシートを作成して頂きました。資料2「ワークシートまとめ」は、ワークシートを含め、これまでの意見をまとめ、情報拠点とは何か、というエッセンスを集約したものになります。後ほど行う意見交換は、この「ワークシートまとめ」を基に行います。この「ワークシートまとめ」は今回だけではなく、第4回以降も使用していきます。

事務局より、「ワークシートまとめ」について説明
(委員による質問・意見無し)

(2) 他自治体の事例紹介

事務局より、第2回検討委員会で参考資料として配布した「他自治体の事例紹介」を使用し、内容を説明

(3) 議題

・情報拠点としての図書館とは

○ 委員長

前回に引き続き、今回も「情報拠点としての図書館とは」を議題に意見交換を行います。他自治体や海外の事例を参考に、ワークシートに挙げきれなかった点や付け加えたい点等についても、意見交換を進めていきたいと思えます。意見交換の時間が足りなかった場合は、次回も引き続き同じテーマで行いたいと思えます。今回は、ワークシートまとめの「2、情報とは」を中心に、委員の皆さんからご意見を頂ければと思えます。特に練馬区として、どんな情報を扱い、区民に発信できるのか、皆さんから追加のご意見をぜひ出して頂きたいと考えています。「2、情報とは」の中に記載されている「区民に知らせるべき情報」においても様々な意見が挙がっていますが、「地域」や「まちづくり」という言葉がキーワードとして出ています。これを見ますと、皆さんは、「地域に根差した図書館」ということを意識されているのだと感じました。もちろんそこを踏まえながらも、それ以外の意見もお気づきのことがありましたら自由に発言頂ければと思えます。

○ 委員

質問です。他自治体の事例をご紹介頂きましたが、どこまで夢を膨らませて良いのか、規模感が分かりません。

○ 事務局

図書館として、こういう機能や役割があったら良い、というご意見を自由に出して頂きました

いと思います。

○ 委員

前回（宿題も含めて）ワークシートに記述したことをとても良くまとめてくださっているとと思います。具体的なイメージとしては、他の自治体の事例にもあったのですが、交流スペース等があるととても良いと思いました。練馬区はお子さま連れの方も多いため、子どものスペースが独立していると、小さなお子さま連れでも来館しやすいと思います。

○ 委員長

「情報」という観点から考えると、住民同士の交流といえますか、コミュニケーションをもっと重視して、そういったことができるような図書館になると良い、ということでしょうか。

○ 委員

「2、情報とは」に記載されている「区民が知りたい情報」についてですが、これは区民それぞれで違うと思います。私個人として知りたい情報はもちろんあるのですが、それを区の公益性を求める施設に押し付けるわけにはいかないと思います。もちろん様々な人たちの意見を吸い上げるのも大事ですが、区民のニーズ調査といえますか、練馬区に住んでいる人はこういう人たちだから、こういう情報が必要ではないか、という配慮も大切だと思います。そのあたりの冷静なデータに基づいた分析も必要だと思います。

○ 委員長

区民のニーズ調査というご意見がありました。今後何か予定はあるのでしょうか。

○ 事務局

図書館を調査項目に取り入れた調査は、平成24年に行った「区民意識意向調査」を最後に行っておりません。現在は利用者アンケートという形で毎年、意見を頂いており、第2回検討委員会で配布した資料「練馬区と図書館の現状等」に記載しております。非利用者のご意見も必要だということは充分認識しておりますが、予算のこともあり、実現に至っておりません。人口分布や各図書館周辺の世代構成等については、資料「練馬区と図書館の現状等」にありますので、地域特性や人口構成等を踏まえ、どのようなニーズがあるか、ご提案を頂ければと考えております。

○ 委員

他自治体の事例で紹介された札幌市「札幌市図書・情報館」で、コンセプトを絞る方法がありましたが、例えば練馬区のそれぞれの館の特徴のようなものを売りにするといえますか、キャッチコピーのような、キーワードのようなものを掲げるのも良いと感じました。それと、大和市「文化創造拠点シリウス」のような、図書館と融合する施設は、利用者にとっ

で非常に魅力的な空間になるという可能性を感じた一方で、働いている職員の方々に対し、いろいろな質問やレファレンスサービス等もあることを想定しますと、適切な職員の配置や雇用問題も併せて考える必要があると思いました。

○ 委員長

キャッチコピーというのは、非常に重要なアイデアだと思います。区内にある図書館それぞれの売りを区民に分かりやすく発信していく。そのことが、それぞれの図書館がどういった情報をメインのテーマとして提供していくのかということを示すことにもつながると思います。例えば美術館と併設されている図書館が練馬区にもあり、他自治体の事例でも紹介された太田市「太田市美術館・図書館」と似ています。美術館と併設というと、美術や芸術という分かりやすい売りがありますが、ほかの館も、何か特徴になるようなものを区民に分かりやすく示せば良いと思います。練馬区の各図書館には、それぞれの売りが既にあるということは以前の検討委員会の中でご説明頂いたのですが、それをもう少し分かりやすく発信していく、図書館側からの情報発信や区民へのアピールの工夫も必要だと思いました。

○ 委員

ワークシートにまとめて頂いた意見は幅広く網羅されているため、情報についてさらに加えることがあるだろうかと考えました。各館の特徴や地域のニーズという点に関しては私も同感ですが、「情報拠点としての図書館とは」何か、ということになると、「ワークシートまとめ」に記載されていることで充分かと思います。ただ、特徴的な図書館というものを考えると、練馬区は住宅地がメインです。情報発信拠点として最先端をいくのか、生活に密着した方向でいくのか、コンセプトに特化して各館それぞれが専門的な分野で特徴を持たせていくのか。何もかも全部入れましょう、となれば、すごく薄いものになってしまうと思います。練馬区の図書館の特徴について、何か切り口のようなものがあると、意見交換しやすいと思いました。「情報拠点としての図書館」のベースとして、本を読むことは当然押さえておかなければならないですが、情報とひと言でいってもいろいろな考え方があります。その情報をどうやって人に伝えていくか、どう深めていくか、どうレファレンスしていくか、もともと図書館が持っている機能にプラスして、他自治体の事例紹介にあった様々な機能が複合した場合や21世紀型としての情報の取り方や発信の仕方が変わった場合など、分けて議論をすると発言しやすいと思いました。

○ 委員長

「ワークシートまとめ」の「区民が知りたい情報」、「区民に知らせるべき情報」は表裏一体で同様のことを言っており、ここにほとんどの意見が網羅されています。皆さんが練馬区民として図書館を利用して、ここに挙がっている情報の中で、既に得られているもの、もっと強化したい部分について意見を頂きたい。もうひとつは、情報を提供するという視点に立ったときに、光が丘図書館、いわゆる中央図書館とそれぞれの地区館では求められ

ているものが違う気がします。中央だから包括的に、ここに挙げた情報は幅広く提供して欲しい、という意見になるかもしれないですし、中央図書館はもっと地域全体に特化した情報を中心に提供するべきで、幅広いものは身近な地区館がやった方が良く、という意見もあるかもしれない。この2つの視点でご意見を頂けないでしょうか。

○ 委員

その視点からもう一度見直してみたいと思います。

○ 委員長

区民が知りたいところと、知らせるべきところを分けずに、トータルで見たときに、もう少し充実させて欲しいことと、今の練馬区の図書館で充分手に入るところがあると思うのですが、いかがでしょうか。

○ 委員

地域密着の図書館なので、例えば練馬区と他の区との違いや、同じ区内でも光が丘地区と練馬駅周辺では地域柄が全く違う、といったところから考えると良いと思います。練馬駅周辺はビジネスマンも多いので、IT系の情報を充実させるとか、光が丘は住宅地で高齢者の施設も多く、図書館は居場所であり、本を通じていろいろな情報を得たいと思っている人が多いなど、地域によって要望が全く違うと思います。自分の最寄りの図書館の情報しか知らないで、各図書館の地域性等を教えて頂けると、ここにはこういうものが必要なのでは、という提案がしやすいと思います。

○ 委員長

キャッチコピーにつながるのかもしれませんが、それぞれの図書館の地域性といいますが、地域住民の方が求める情報ニーズをどう反映していくか、というところですね。

○ 委員

「ワークシートまとめ」は、各委員がそれぞれ出した意見を、いくつかのグループに分けています。各グループにおける意見を増やそうとしているのか、第2回検討委員会の資料「練馬区と図書館の現状等」の4つの柱のうちのひとつである「情報拠点としての機能」の話なのか、今回の議論の方向性が見えづらく、何を発言して良いか分かりません。次はこんな風に展開していきたいなど、見取り図のようなものがあると発言しやすいと思います。また、他自治体の事例紹介は大変面白く刺激されるのですが、無いものねだりになるのもあまり良くないように思いました。このような狙いがあり、その具体的な実現手法をセットで教えて頂けると、目標のようなものを設定するというレベルで議論しやすいと思いました。例えば武蔵野市の「情報創造館武蔵野プレイス」では基本計画のような、こういうことが背景にあり、それを実現するために具体的にこういうサービスがあった、ということセットで話して頂くと、議論しやすいように思います。「ワークシートまとめ」の「1、情報拠点の

イメージ」は抽象的で、「2、情報とは」、「3、情報拠点としてどうあるべき」で、もう少し具体性を持たせていると思うのですが、そういった説明をもう少しして頂けると議論しやすいと感じました。

○ 委員長

事務局に、だいたい最終回までにこういう流れでまとめていきたい、という見通しを、各回で提示して頂くと分かりやすいと思いますが、いかがでしょうか。

○ 事務局

今回の検討委員会では、まず委員の皆さまに練馬区の図書館の現状や足りないものなどについて、構想を作る上での素材といただけますか、ご意見を頂きたいと考えております。来年の構想案の策定を目指した意見としてだけでなく、5年後10年後の練馬区の図書館はこうあるべき、というものがあれば出して頂き、その意見の中から構想の基となる骨子のようなものを得たいと考えております。「ワークシートまとめ」の「2、情報とは」の「区民が知りたい情報」と「区民に知らせるべき情報」は表裏一体との意見が委員長からありましたが、例えばここに記載された「地域文化、芸術」、「地域資料、地域情報」等について、実際に練馬にあてはめた場合、この地域であればどんなことがあるか、こういうものが不足しているので必要では無いか。また、「地域に密着した情報」とありますが、練馬区だったらどんな情報があるのか、この地域ではこういう情報が必要なのでは、などと細かく挙げて頂き、深掘りできれば良いと考えております。先ほど委員からご提案がありました、館の特徴を出してコンセプトを絞るといったご意見、区立図書館として各館均一のサービスが良いといったご意見、多種多様なご意見があると思いますので、そこに練馬区の特徴をあてはめていきたいと思っております。今後の進め方ですが、第1回目の検討委員会から積み重ねてきた意見も含めながらテーマを絞り、意見交換できれば良いと考えております。今回は、第2回検討委員会で意見交換の時間が不十分だった「情報拠点とは何か」の中のキーワードである「情報」についての意見交換を考えておりますが、今後は「交流」や「協働」といったテーマに絞り、進めていきたいと考えております。

○ 委員長

これまでの委員の皆さんの発言を伺いますと、今回のテーマが広すぎて、どう発言して良いのか分かりにくいというところもありますし、最終的にどういうまとめ方をするのかという見通しに関しても、ご意見があるように思います。今回はあくまで練馬区の図書館の構想の検討ですが、区立図書館全体としての構想とともに、地域という部分にもこだわり、それぞれの地区館の周辺地域や地域住民のニーズ等も意識して意見を出そうと考えると、発言しにくい部分があるかもしれません。最終的には練馬区の図書館構想であり、各図書館のコンセプトのようなものは示さない、という理解でよろしいでしょうか。

○ 事務局

練馬区の今後の図書館構想の中で各地区図書館の特色を示していくということはありませんが、具体的にこの図書館はこういうコンセプトで、など12館について細かく意見を挙げることは考えておりません。ただ、今までのお話の中でも、各地域の図書館に特色を出すためのコンセプトは必要だというご意見があり、コンセプトが出せる館は出す必要があると思いますし、地域の特徴や地域住民のニーズ等は、構想の中のひとつの項目になると考えております。図書館とは情報の拠点であり、区民のニーズに対応して、平等に、様々な情報を提供し、集約する場所であるというご意見がありました。居心地の良い、交流できるようなスペースが欲しい、というご意見もありました。頂いたご意見を踏まえて、地域性や館の特性等を含めた図書館としてのベースや、これから必要な特徴といったカテゴリーでお話を進めながら、構想を組み立てていければ良いと考えております。

○ 委員長

特定の図書館についてこうなったら良い、こういう資料があったら良い、という意見よりも、練馬区の図書館全体をどう捉えていくかという視点で話を進めていきましょう、ということですね。この地区はこういう発想で良いのか、それとももう少し抽象度を上げ、練馬区の図書館として、という捉え方でいくのか、というところがくみ取りづらく、意見が出しづらと思います。委員の皆さんが想像するのは、自分のお住まいに近い地区館で良いのかもしれないのですが、検討委員会で最終的にまとめていくのは練馬区全体の図書館ということですね。

○ 事務局

そのとおりです。皆さん、お住まいの近くの図書館をイメージして発言された方がやりやすいと思います。確かに駅に隣接した図書館と光が丘図書館では求められているニーズが違いますし、各館に地域に密着した情報など個別のものもありますが、練馬区として捉えたときに共通しているところもあると思いますので、練馬ならではの地域特性や地域情報等を委員の皆さんにお伺いできればと思います。

○ 委員長

練馬区内の特定の地域を「地域」として捉える場合もあるのですが、ここでの「地域」とは「練馬全体」という捉え方ということですね。捉え方が皆さんそれぞれなので、ご意見が出にくいということなのかもしれませんね。練馬という、広い地域で捉えた視点で良いということですね。

○ 事務局

昨年からは図書館のあり方を検討してきましたが、12館全てに共通する基本部分も、各館の特色も、両方とも必要です。静かに本を読むスペースも、子どもたちが楽しく過ごせるスペースも必要です。新しい図書館は、両極端な機能を求められています。図書館には国立図

書館もあれば都立図書館もあり、民間の本屋もある中で、区の図書館としてはどうあるべきか、基本機能はどのようなものが良いのか、どのような図書館を目指すのか、議論して頂いた後に、特色のある貫井や練馬等の各館について、個別にご意見を頂ければと考えております。基本は練馬区全体の図書館として、住宅都市の図書館としてどうあるべきかというご意見を頂ければと思っております。確かに今回のワークシートは、模範的な意見が多くなっておりますが、中でも特に必要なもの、望ましいものについて意見を頂けると、練馬区の図書館としてメリハリをつけてどれを取り上げていくかということを考えることができます。今回は、「情報」というテーマの中で、特にこういった情報が欲しいとか、これはもっと必要だ、などという意見が頂ければと考えております。

○ 委員長

「ワークシートまとめ」の中で、この部分は今の練馬区の図書館で十分に得られているが、情報としてもう少しこの部分は欲しい、というご意見を頂きたいと思えます。

○ 委員

都でも無い、国でも無い、区立の図書館の特徴ということであれば、練馬は「みどりの風吹くまち」であり、住民が多世代であるということで、暮らしに近い図書館であれば良いと思っております。例えば、難しいかもしれませんが、全館に中庭もしくは外庭のような、芝生があって外で読書が楽しめるスペースが充実していると、注目されて面白いと思えます。街中では難しいかもしれませんが、ちょっと外の空気が吸えるような、のびのびした、緑が感じられる図書館というコンセプトは練馬ならではの素敵だと思います。暮らしに近い、ということであれば、例えば高齢者には座るスペースを用意する、親子連れには声を出しても良いスペースを用意するなど、世代によってニーズが満たされるコーナーやソフト面での配慮もあると、利用率も上がると考えます。「情報とは」、「情報拠点としてどうあるべきか」などを考える前に、イメージを描いた上で、ひとつずつ考えていけたら良いと思えました。

○ 委員

第1回検討委員会で図書館の概念や練馬区の図書館の現状を伺い、第2回で光が丘図書館を見学し、第3回で地域に根付いた他自治体の事例を説明して頂きました。次回からのテーマは、他の図書館と比較して、練馬区の図書館ではこういった特徴を出して構築していくべきではないか、という具体的な話に進めていくと、必然的に図書館全体の話になると思えます。話が飛躍して図書館らしくなくなったときは「図書館の定義とは？」という根本的な話に戻れば良いだけの話だと思います。図書館の定義にいつでも戻れる状態にした上で、練馬区にはこのような特徴がある、と他の図書館に無いものを意見として出していけば良いと思えました。今回配布された「ワークシートまとめ」は、皆さんの意見を共有する基となると思えます。

○ 委員

皆さんの「こうあったらいいな」「こういう図書館がいいな」という思いが実現されるための検討委員会だと考えますので、そのような思いを意見交換できれば良いと思います。また、「区民に知らせるべき情報」では、練馬区の地域の伝統や歴史を伝えていければ良いと思いました。図書館には既に郷土資料コーナーがありますが、郷土の歴史や文化を発信していくことは継承していくことにつながるので、地域の特性を活かすことは重要だと思いました。

○ 委員

「ワークシートまとめ」は、練馬区というより図書館全体の広い議題だったので、発言しにくかったように思います。個人的な課題として、練馬区の図書館について考えていくにあたり、練馬区の知識をもっと入れておきたいです。今回、他自治体の事例紹介で、こういう地域の特性があるからこういうコンセプトの図書館がある、と分かり、練馬区についての知識が乏しいので、勉強しようと思いました。考えるテーマが広いことが良い悪い、ということではなく、委員全体が同じ目標に向かっていない感じが、それが意見を出しにくく感じています。今後は、委員全員が同じ問いについて意見交換できれば良いと思いました。

○ 副委員長

練馬区のニーズに対応するのほひとつだと思いますが、逆に練馬区の図書館にある良い資料や、区として出したい資料があれば、それをニーズに合わせて発信していくのほひとつの手段だと思います。良い資料があっても、なかなか目に触れなかったり、埋もれていたりする場合があるので、もしそういうものがあればご紹介頂き、それをどのように浸透させていくと良いのか、ということを考えるのほ良いと思います。また、他の施設と連携する可能性もあると思うのですが、練馬区の他の文化施設の状況を詳しく知らないのほ、併せて紹介して頂くと、「連携」等のアイデアも出やすいと思いました。

○ 委員長

地域や地域文化というところでの情報提供という観点でいうと、例えば区立の博物館等、生涯学習の情報提供を行っている施設や文化施設について、練馬区にはどのような施設があり、どのような情報を区民に提供しているのかを併せて提供して頂くと良いと思いました。情報拠点は図書館だけでは無いですし、博物館も美術館も情報を提供しています。図書館、博物館、文書館等は連携を強化して一体化していきましょう、という考え方もあります。類縁機関との関係性も視野に入れていくと良いと思います。「情報拠点」という視点で議論するときに、図書館単独として担うべき部分の議論なのか、練馬区全体への情報提供として区民への情報サービスのあり方という視点で捉えていくべきなのか、というところでも、皆さんの意見の方向性や議論の仕方が変わってくると思いました。「連携」という視点は、非常に重要なポイントだと思いますので、次回はポイントを押さえて、何を具体的に議論して

いくのか検討していければと思っております。

(4) その他

(委員による質問・意見無し)

(5) 次回の予定

閉会